

パルシステム 蓄冷材関連

効率化と衛生管理強化へ クレオ社製 蓄冷材自動洗浄機 岩槻センターに導入

パルシステム連合会は、宅配配達で使用する蓄冷材を自動で洗浄する「蓄冷材洗浄水切りライン」(クレオ社製、以下・蓄冷材自動洗浄機)を岩槻センターに導入し4月に稼働した。

蓄冷材自動洗浄機は、作業の効率化や衛生管理強化による組合員の満足度アップを目的に導入。「これまで使用していた洗浄機が老朽化したことを踏まえ、最新の洗浄機導入を検討し、

業界での実績とメンテナンスの対応でサービスマン近いことからクレオ社に決めた」(パルシステム連合会・物流部・伊東昭彦担当部長)という。

レオが、オリコン洗浄のノウハウをベースに生協物流センター向けに開発。蓄冷材を入れたオリコンが積まれた台車を投入すると、段バラシ、洗浄、すすぎ、水切りまで自動で行う。処理能力は1時間8千枚、岩槻



洗浄効率化や組合員の利用満足度アップを目的に蓄冷材自動洗浄機(クレオ)を導入

パルシステム東京 作業の負荷を軽減 配送センターに蓄冷材洗浄機

パルシステム東京では2019年に宅配の青梅センターに新蓄冷材洗浄機を導入した。2020年度も2センターに導入を予定している。導入した洗浄機は、これまで使用していた洗浄機の約2〜3倍の処理能力で、作業負荷の軽減と効率化を進めている。

新洗浄機は、センターのセンターでは2時から朝10時まで8時間稼働し、1日あたり6万枚を洗浄する。コロナ問題で衛生意識は高まっており、パルシステムでは使用した蓄冷剤を毎回洗浄することで組合員のニーズに応える方針だ。

空スペースに合せて特注したもの。蓄冷材の投入から洗浄の作業をライン化したほか、水圧を高めることで洗浄能力アップや水はね防止、安全装置設置など改良した。

処理能力は1時間あたり



1200枚。青梅センターでは1日7千枚の洗浄を女性のパート職員1人でやっている。「重い蓄冷材の持ち運びは大変で、また、作業中に濡れるなど厳しい仕事だった。新しい蓄冷材洗浄機の導入で人手不足の中、働きやすい職場環境で雇用の定着を図っていく」(パルシステム東京・総務部・工藤明部長と話している)。

青梅センターに導入した新蓄冷材洗浄機